

# RSSリーダーは 情報収集を 楽にする魔法のツール

text: 田口和裕

## 実践

### アサヒ・コムもWatchもZDNetも全部まとめる できるビジネスマンの時間節約術「RSSリーダー」

毎日無数にアップされるインターネット上の膨大な情報。効率的な最新情報の収集は我々現代人にとって必須科目だ。ポータルサイトで見出しを眺める。整理されたブックマークで巡回する。情報を収集

するにはさまざまな方法があるだろう。その効率を劇的に高めてくれるのが「RSSリーダー」だ。RSSとはサイトの概要をメタデータとして簡潔に記述するXMLフォーマット( Rich Site Summary / RDF

Site Summary / Really Simple Syndicationなどの略)。そのRSSを自動的に巡回して入手し、さらに見やすくまとめてくれるツールがRSSリーダーだ。論より証拠、まずは一度使ってみよう。

ニュースサイト5か所の新着ニュースチェック & 気になった情報の流し読みにかかった時間(編集部実測)



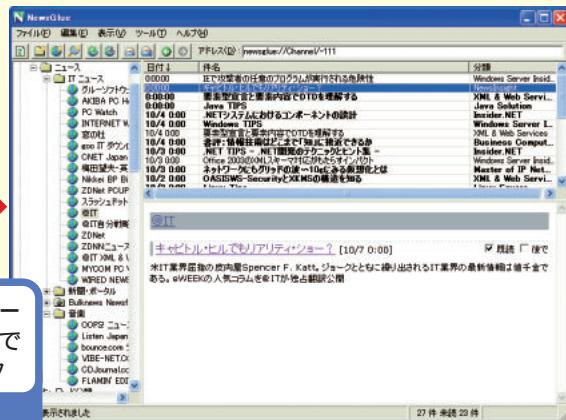
ブックマークで1サイトずつチェック

32分

RSSリーダーを使うと

オススメRSSリーダーNewsGlueでまとめてチェック

17分

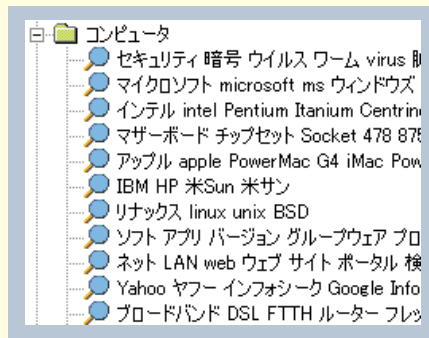


まずは使ってみよう

キーワードで知りたい情報だけに絞り込めば

7分

実際にニュースサイトから最新の見出しをチェックする時間を計測してみた。結果を見れば一目瞭然だ。RSSリーダーの情報収集効率の良さがわかるだろう。ブラウザ経由だと複数のサイトを巡回しなければならないのに対し、RSSリーダーだとすべてを並列に一覧表示してくれるため、必要な情報の取捨選択が容易にできるためだ。



今オススメのRSSリーダーは NewsGlueだ

RSSリーダーは米国製を中心に数多く存在するが、文字コードの関係などで日本での使用には向かないツールも多い。「NewsGlue」は数少ない日本製のツールだ。当然日本語完全対応なので安心して使用できる。主な特徴としては、次のようなものがある。

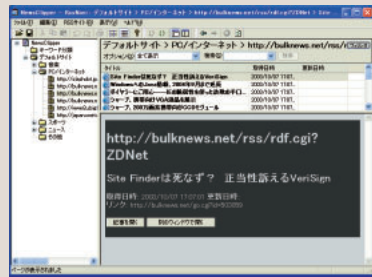
- ・メールソフトのような3ペインのインターフェイス
- ・デフォルトで多数登録されている日本のRSSリスト
- ・強力なキーワードフィルター・検索機能
- ・メール連携機能

シェアウェアだが機能制限のある無料体験版も用意されているのでまずはインストールしてその便利さを体験してみよう。

初のパッケージ版RSSリーダー「ニュースクリッパー」

本邦初のパッケージ版RSSリーダーが11月7日に発売予定だ。フォルダーによる分類や検索機能が充実している。最新記事を電光掲示板のようにデスクトップに表示できるヘッドラインウィンドウ機能が便利。標準価格：2,980円(NECインターチャネル)

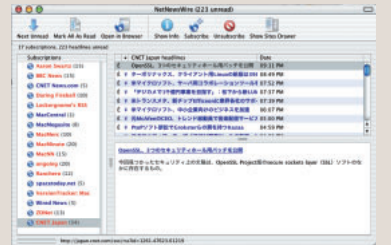
URL <http://www.neic.co.jp/pc/utility/>



マックでもRSSリーダーはある「NetnewsWire」

Mac OS X対応のRSSリーダーはコレだ。シンプルで使いやすいインターフェイス。ドックに登録すると未読の記事数を表示できる。Movable Typeなどのウェブログツールに投稿する機能も用意されている。また、AppleScriptに対応しているのでさまざまな自動化ができる。

URL <http://ranchero.com/netnewsWire/>



まずはダウンロードしてインストール

所要時間 2分

ダウンロードページはココだ。

NewsGlueを使うにはIEと.NET Frameworkが必要だ。入っていない場合はここからダウンロードページに移動できる。

ステップ 1: Internet Explorer の確認  
Microsoft Internet Explorer 5.01 以上 をダウンロードしてない場合は、ダウンロードしてください。  
● マイクロソフトのダウンロードセンターへジャンプする

ステップ 2: .NET Framework の確認  
.NET Framework 1.1 をダウンロードしてない場合は、ダウンロードしてください。  
● マイクロソフトのダウンロードセンターへジャンプする

ステップ 3: RSS ニュースリーダー NewsGlue のダウンロード  
Version 1.2.1 (2003/9/14) をご利用いただけます。以下の2つのいずれかの方法でダウンロードしてください。  
[実際にダウンロードを確認するには上記リンクをクリックしてください]

圧縮ファイルをダウンロードして、自分で展開  
1. 下のリンクからダウンロードする (1.32 MB)  
2. 下のリンクから直接展開する  
3. 展開したファイルをダブルクリックして実行する  
4. 実行ファイルを実行する  
5. 実行ファイルを実行する  
6. 実行ファイルを実行する  
7. 実行ファイルを実行する  
● このサイトからダウンロードする

ダウンロードしてそのままセットアップ  
1. 下のリンクからダウンロードする  
2. ダウンロードしたファイルをダブルクリックして実行する  
3. 実行ファイルを実行する  
4. 実行ファイルを実行する  
5. 実行ファイルを実行する  
6. 実行ファイルを実行する  
7. 実行ファイルを実行する  
● このサイトからダウンロードする

「そのままセットアップ」を選んでダウンロードしよう

ダブルクリックすればインストールが始まる。

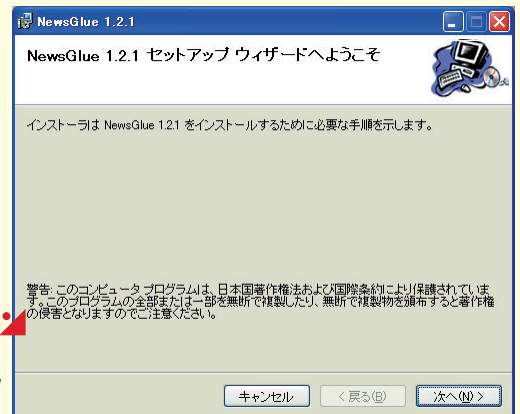
便利なRSSリーダーがあるならば、さっそく使ってみよう。NewsGlueは、ウェブサイトからファイルをダウンロードしてインストールすればすぐに使える。  
URL <http://www.gluesoft.co.jp/NewsGlue/>  
ただし、「NewsGlue」を使用するには、IE 5.01以上とMicrosoft .NET Framework

1.1が両方インストールされている必要がある。まだインストールしていなければ、NewsGlueのダウンロードページからそれぞれをダウンロードできるサイトへのリンクがあるので利用しよう。あとは「ダウンロードしてそのままセットアップ」の「NewsGlue」セットアップファイルをダウンロードしてダブルクリックするとインストーラーが起動するので指示に従って「次へ」ボタンを押していこう。簡単にインストールは終了する。



ダブルクリックすればインストールが始まる。

インストールは「次へ」をクリックしていけば完了する。

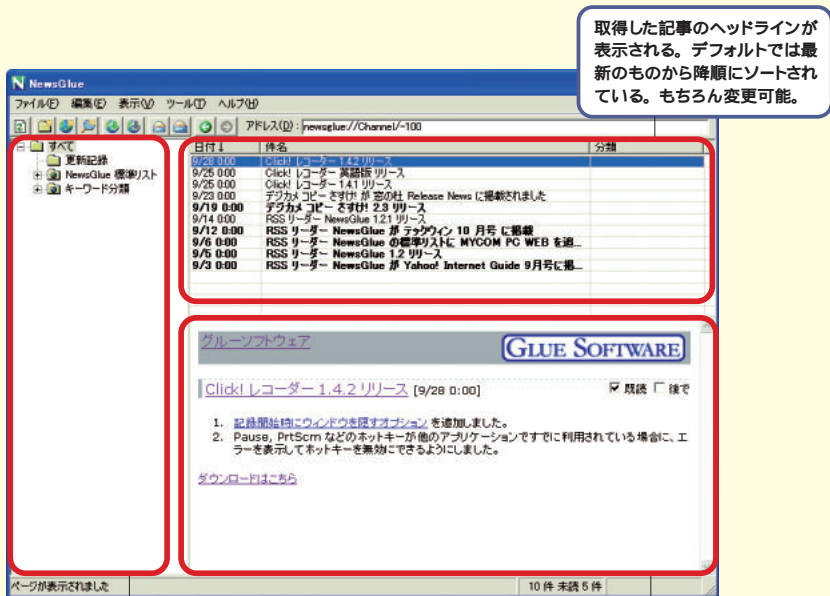


NewsGlueは3,000円のシェアウェア。機能制限のない2週間の無料体験期間が過ぎてでも使えるが、一部の機能が制限される。

## これがNewsGlueの画面だ

インストールが終了したらさっそく「NewsGlue」を起動してみよう。一見メールソフトのようなインターフェイスだ。画面は大きく分けて3つのエリアで構成されている。左側にツリー表示されているのが購読しているニュースのリストだ。デフォルトでも多くのソースが登録されているが、もちろん自分で追加することも可能だ。右側上部には取得したニュースのヘッドラインが表示される。ヘッドラインを選択すると画面右側下部にその記事の見出しと、登録されている場合は概要などが表示される。見出しをクリックするとコンポーネントブラウザが起動し、同じ画面でウェブページを閲覧できる。

触ってみると感じると思うが、外見だけではなくその機能や使用感もメールソフトに似ているので、すぐに慣れるだろう。



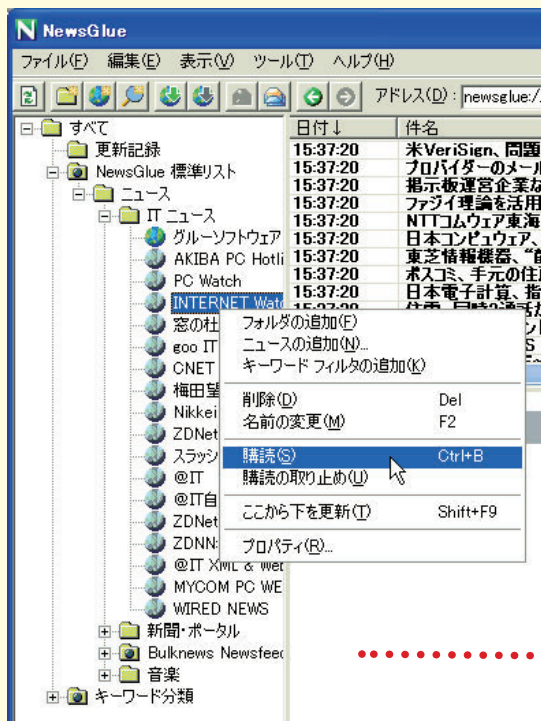
購読しているニュースがツリー形式で表示される。後述するキーワードフィルターもここに登録する。

右上で選んだ記事の内容が表示される。記事タイトルをクリックするとコンポーネントブラウザが起動して実際のウェブページを閲覧できる。

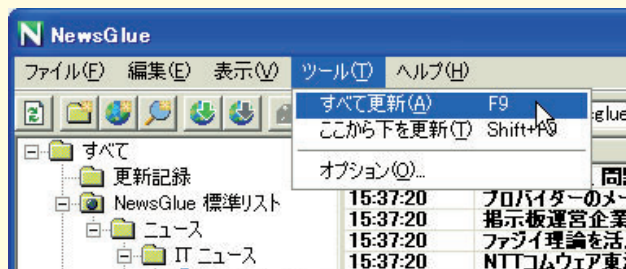
## チェックしたいサイトを指定してRSSをゲット!

ニュースをチェックするためには「購読」の設定をしなければならない。デフォルトでは「グルーソフトウェア」のみ購読している状態なので、自分の興味のあるニュースを選んで1つずつ購読していこう。「NewsGlue」ではあらかじめ多くのニュースが登録されている。まずは画面左側のツリー

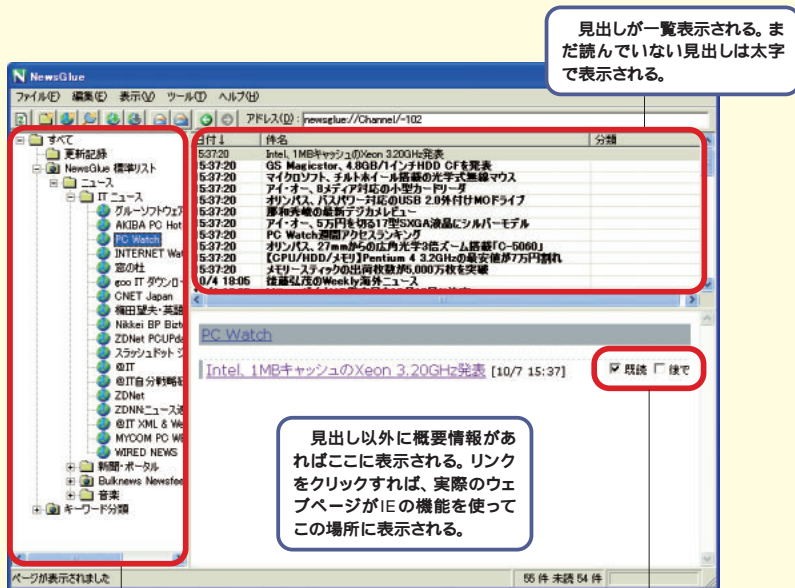
から「NewsGlue標準リスト」を選択して購読したいニュースを選んで右クリック。コンテキストメニューで「購読」を選ぼう。ニュースのアイコンが緑色に変化して購読状態になる。これで購読の手続きは終了だ。「ITニュース」「新聞・ポータル」「Bulknews Newsfeeds」などさまざまなカテゴリがある。後から購読中止もできるので興味のあるニュースはとりあえずすべて購読設定してしまおう。



購読したいニュースを右クリック。「購読」を選択。



「ツール」>「すべてを更新」を選ぶと購読設定したニュースの更新を始める。



見出しが一覧表示される。まだ読んでいない見出しは太字で表示される。

見出し以外に概要情報があればここに表示される。リンクをクリックすれば、実際のウェブページがIEの機能を使ってこの場所に表示される。

左側のツリーのどこを選択するかによって表示される記事が変わる。「PC Watch」を選択すると「PC Watch」の記事のみが表示され、「すべて」を選択すると購読しているすべての記事が表示される。

今は見る時間がないので後からじっくり確認したいという情報は「後で」をチェックしておく。「後から読む」情報だけをまとめてチェックできる。

### ニュース見出しをチェックして気になる情報を見る

見たいニュースを購読状態にしたら「ツール」メニューの「すべてを更新」を選ぼう。すると自動的に巡回が始まり、画面右上にどんどんニュースのヘッドライン(見出し)が表示されていく。後は見たいニュースのヘッドラインを選択すれば画面右下に内容が表示される。RSSに概要が含まれている場合はヘッドラインのほかに概要も表示されるので記事のアウトラインがつかめるだろう。記事について詳しく知りたいときは、ヘッドラインをダブルクリックするか、右下の画面にあるヘッドラインをクリックすると同じ画面にブラウザで記事が表示される。シフトキーを押しながらクリックするとIEで表示することも可能だ。

## 見たい情報を絞り込む 所要時間 10分



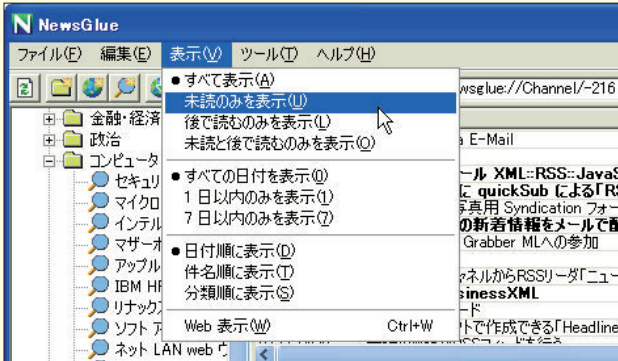
多数用意されているキーワードフィルター。自分で新しいフィルターを作りたい場合は右クリックして「キーワードフィルタを追加」を選ぶ。キーワードフィルターの名前がそのままフィルターになるので内容を変更したい場合は右クリックして「名前の変更」だ。

### キーワードで選ぶ

キーワードフィルターを使って、特定の分野の記事のみを絞り込むことができる。たとえば「ネット、LAN、web、ポータル」というキーワードフィルターを選択すると、すべてのニュースの中から選択したキーワードを含む記事のみが絞り込まれて表示される。最初から多くのキーワードフィルターが用意されているが、自分でも作成できるので興味のある分野のフィルターを用意して効率的に情報を集めよう。

### 鮮度で選ぶ

NewsGlueを常用すると1日に数百のニュースが集まってくる。実際にはすべてのニュースを読むのは不可能だろう。そんなときは情報の鮮度で取捨選択するのもいいだろう。「表示」メニューには「すべてを表示」「未読のみを表示」「1日以内を表示」「7日以内を表示」といったさまざまな絞り込み方法が用意されている。この機能を利用すれば情報のチェック漏れが少なくなるだろう。



「表示」メニューでさまざまな表示方法を選択できる。標準ではすべて表示されるが「7日以内のみ」にしておくといいだろう。

## ネタ元はニュースの「メタ情報」データ 情報のエッセンスをRSSリーダーで取り込む

### ほかにもあるぞRSSリーダー

前述したが、「NewsGlue」以外にもRSSリーダーは多数存在する。だが文字コードの問題で日本語に対応している外国製のツールはまだ少ない。しかしツールによっては日本語化キットが用意されているものもある。

右のリストでは日本語が問題なく使えるRSSリーダーを紹介している。シンプルなものから多機能なものまで各種揃っているので実際にダウンロードしてみて自分に合ったツールを探してみるといいだろう。

単体型リーダーはほとんどがメーラー型のインターフェイスを採用している。中にはリーダーからMovable Typeのようなウェブログツールに直接ポストできる機能や記事をメールに添付して転送してくれる機能、iPodに記事を転送してくれる機能などを持ったツールも存在する。

ブラウザプラグイン型のツールはブラウザのツールバーとして機能する。ウェブチェックをしながらRSSリーダーで最新ニュースもチェックできるので非常に効率がいい。将来的には単体型よりこちらの方が主流になる可能性もあるだろう。

ティッカー型と呼ばれるものは、画面に常駐する小さなアクセサリのような形のツールだ。電光掲示板のように常に最新ニュースが流れるので、興味のあるニュースが表示されたらクリックする。するとブラウザにそのニュースの内容が表示されるのだ。

ほかにもPDA用や携帯電話端末用などさまざまなツールの開発が進んでいる。いずれはブラウザやOSにRSSリーダーが組み込まれるようになるかもしれない。

新しいツールの情報を逃さないように毎日RSSリーダーで最新ニュースをチェックしよう(笑)。

### 日本語が使える主なRSSリーダー

単体型(ウィンドウズ用・日本製)	
Glucose	<a href="http://glucose.dip.jp/Zope/">http://glucose.dip.jp/Zope/</a>
Headline-Reader	<a href="http://www.infomaker.jp/headline/">http://www.infomaker.jp/headline/</a>
ニュースクリッパー	<a href="http://www.neic.co.jp/pc/utility/vitamin/n_clipper.html">http://www.neic.co.jp/pc/utility/vitamin/n_clipper.html</a>
単体型(ウィンドウズ用・海外製)	
FeedDemon	<a href="http://www.bradsoft.com/feeddemon/">http://www.bradsoft.com/feeddemon/</a>
SharpReader	<a href="http://www.sharpreader.net/">http://www.sharpreader.net/</a>
NewzCrawler	<a href="http://www.newzcrawler.com/">http://www.newzcrawler.com/</a>
単体型(マック用)	
パラボナミ(日本製)	<a href="http://www.kumalab.com/soft/">http://www.kumalab.com/soft/</a>
NetnewsWire	<a href="http://ranchero.com/netnewswire/">http://ranchero.com/netnewswire/</a>
Shrook	<a href="http://www.fondantfancies.com/shrook/">http://www.fondantfancies.com/shrook/</a>
ブラウザプラグイン型(IE用)	
IE RSS Aggregator	<a href="http://www.managedcomponents.com/tools/ieRSSaggregator/ieRSSaggregator.htm">http://www.managedcomponents.com/tools/ieRSSaggregator/ieRSSaggregator.htm</a>
ブラウザプラグイン型(Mozilla Firebird用)	
Mozilla Firebird RSS Reader plugin	<a href="http://fls.moo.jp/moz/rssreader.html">http://fls.moo.jp/moz/rssreader.html</a>
ティッカー型	
Rabbit Ticker(日本製)	<a href="http://www.work-at.co.jp/rabbit/">http://www.work-at.co.jp/rabbit/</a>
Klipfolio	<a href="http://www.serence.com/site.php?action=ser_products_prod_klipfolio">http://www.serence.com/site.php?action=ser_products_prod_klipfolio</a>

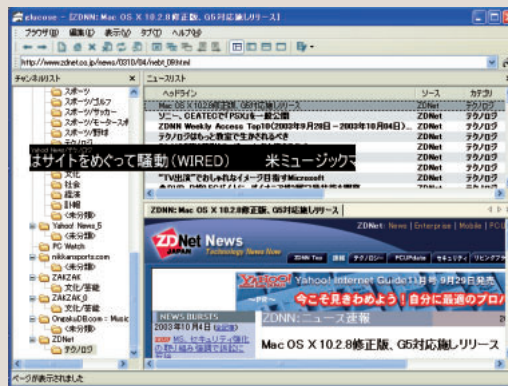
### 注目のRSSリーダー「Glucose」

注目の日本製RSSリーダーがGlucoseだ。まだ開発途中ではあるが、予定されている機能がすべて実現されれば、かなり便利なRSSリーダーになると予想される。

基本的にはベーシックなメールソフト型インターフェイスのリーダーだが、ウェブログへの書き込み機能、電光掲示板機能などさまざまな機能を実装している。

特に独特なのがトラックバックの追跡機能とP2P機能である。前者は該当記事へのトラックバックが一覧できる機能だ。後者はP2Pで他のユーザーと接続して、似た傾向のニュースを購読しているユーザーのリストからおすすめニュースを表示する機能だ。

<http://glucose.dip.jp/Zope/>



ウェブログユーザーならば、Glucoseで新しい情報をチェックして、ネタになるものがあればそのまま記事をポストできるのは大きなメリットだろう。

## RSSは「情報の情報」のXML

それではRSSとはいったいなんなのだろう？ 簡単に言えばサイトや記事の概要をメタデータとして簡潔に記述するXMLフォーマットだ。では具体的にどのようなデータが記述されているのだろうか？

それを知るにはRSSデータをブラウザで開いてみればよい。実は現在一般的に使用されているRSSには規格(バージョン)が複数あり、規格によって細かい記述が異なるのだが、重要なのは「title」「link」「description」の3つだ。基本的にこの3つが記述されていればRSSリーダーで表示できる。RSSリーダーはこの3つの記述を読み込んで、パーサーと呼ばれるプログラムで解釈して最新ニュースを表示しているのだ。逆に言うと、RSSには記事の本文は含まれていない。RSSはあくまでも「情報の情報」を伝えるためのものだ。RSSリーダーは「情報の情報」を集めて表示し、また、実際の情報が載っているウェブサイトを表示する機能を持つことで「情報の情報」と情報自身をうまくつないでいるのだ。

最新のRSSの規格ではこのほかにもたくさん要素を記述できるようになっている。たとえば「Copyright」属性には権利者の記述を、「webMaster」属性にはページ作者のアドレスなどを記述できるようになっている。

このようにサイトの内容を簡単に記述できるという利点を持ったRSSはリーダーソフト以外にもさまざまなところで活用が可能である。それぞれ開発者の違うバージョン間で争うのではなく、ツールの開発者やユーザーのためにも規格の早期統一が望まれる。

### RSSに含まれる主な情報(実際にはバージョンによって異なる)

title	サイトまたは記事のタイトル
link	サイトまたは記事へのURL
description	記事の概要
language	使用されている言語
lastBuildDate	最終更新日時
webMaster	ウェブマスターのメールアドレス

(実際にはバージョンによって異なる)

```
<item rdf:about="http://japan.cnet.com/svc/rss?id=1261.47623.61274">
  <title>「デルより安い」:サンの新エントリーレベルサーバが日本に上陸</title>
  <link>http://japan.cnet.com/svc/rss?id=1261.47623.61274</link>
  <description>サンは7日、低価格を売りにしたデル商品より安価だというエントリーレベルのサーバおよびワークステーションを発表した。</description>
  <dc:date>2003-10-07T17:46:01+09:00</dc:date>
</item>
```

たとえばRSSファイルのこの部分を

RSSリーダーが解釈してこのように表示している

## RSSでウェブが変わる?

もともとRSSはネットスケープ社がMy Netscape ポータルページにニュースヘッドラインを配信する方法として開発したものだ。結局この試みはあまり成功を収めずに同社はRSSの開発から手を引いたのだが、RSSの持つ簡易性と汎用性に目をつけた技術者がウェブサイトの更新情報を配信する技術として復活させたという経緯がある。

現在のように爆発的に普及した理由としては、Movable TypeのようなウェブログサイトがRSSの生成を機能として持つようになったことが挙げられる。さらに、CNNやZDNetといった米国の巨大ニュースメディアがRSSの配信を始めたこともその普及に拍車をかけることになった。

現在は利用者サイドでRSSリーダーで記事を購読するといった「Aggregation(集約)」的な使い方が主であるが、将来的にはニュース配信の共通フォーマットとして

「Syndication(配給)」的な側面にも注目が集まるとも言われている。つまり、他のサイトから提供されたRSSを自分のサイトで利用して情報を提供するという使い方だ。

また話をXMLのメタデータによるコンテンツの配信という面に広げると、今までのHTMLベースのウェブが「人間が理解することのできるウェブ」とすれば、メタデータを使用したウェブは「コンピュータが理解することのできるウェブ」だ。ウェブ自身が意味を表現するという意味で「セマンティックウェブ」という考え方が現れてきている。

たとえばセマンティックウェブは検索エンジンのあり方にも大きく影響するとも言われている。

Googleのようなキーワード総当たり式の検索方式よりもメタデータを使った文脈に依拠した検索ではより検索精度が上がるのではないかと予想されている。

このようにRSSはさまざまな可能性を持った技術である。今はまだRSSリーダーを「ニュースリーダー」として使うことが多いが、RSSの持つ可能性はニュースに限られているわけではない。今後はオンラインオークションの入札情報や掲示板の投稿情報など、RSSを使ったさまざまな情報の入手に応用されることも増えていくだろう。

# 応用

いろいろと工夫すればさらに情報力アップ

## RSSリーダーをさらに活用するテクニック

### いろんなサイトのRSSを集めよう

NewsGlueであらかじめ用意されているニュース以外にもRSSを発行しているサイトは増え続けているし、多くの個人のウェブログでもRSSは発行されている。また、RSSを配信していないサイトのHTMLページから独自にRSSを生成しているサービスも存在する。チェックしたいサイトのRSSを見つけたらNewsGlueで購読するサイトとして追加しよう。

やり方は2種類ある。1つは「ファイル」メニューの「ニュースの追加」を選んでRSSのURLを直接入力する方法だ。

もう1つはウェブサイトに表示されている「RSS」「RDF」「Syndicate」などのアイコンを直接「NewsGlue」にドラッグ&ドロップする方法だ。いずれの方法でもかまわない。

キーワードフィルターも自作できる。「ファイル」メニューの「キーワードフィルターの追加」を選び、検索したいキーワードを入力するだけだ。複数のキーワードを登録したい場合は半角スペースで区切って入力すればよい。

### RSSを公式に提供しているサイト

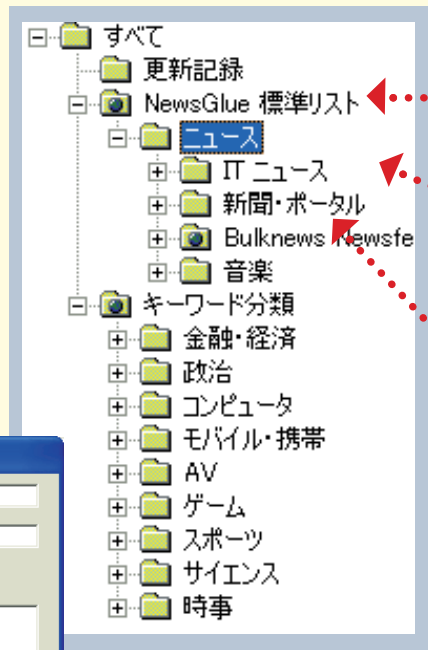
CNETJapan	URL <a href="http://japan.cnet.com/info/rss/">http://japan.cnet.com/info/rss/</a>
HotWired Japan	URL <a href="http://www.hotwired.co.jp/news/index.rdf">http://www.hotwired.co.jp/news/index.rdf</a>
@IT	URL <a href="http://www.atmarkit.co.jp/aboutus/rss/rss.html">http://www.atmarkit.co.jp/aboutus/rss/rss.html</a>
MYCOM PC WEB	URL <a href="http://pcweb.mycom.co.jp/top/notice/rss.html">http://pcweb.mycom.co.jp/top/notice/rss.html</a>
スラッシュドットジャパン	URL <a href="http://slashdot.jp/slashdot.rdf">http://slashdot.jp/slashdot.rdf</a>
Bloggers Japan	URL <a href="http://ping.bloggers.jp/">http://ping.bloggers.jp/</a>
Myblog japan	URL <a href="http://www.myblog.jp/blogs.rdf?type=rss1.0">http://www.myblog.jp/blogs.rdf?type=rss1.0</a>

### RSSを生成するCMSツール(これらのツールで作成されたページでは自動的にRSSが生成される)

Movable Type、Blosxom、Nucleusなどのウェブログツール
Xoops、Zope、phpNukeなどのポータルCMSツール
Pukiwiki、YukiWikiなどのWikiツール
はてなダイアリーなど

### ウェブページからRSSを自動生成するサービス

rss-jp.net	URL <a href="http://rss-jp.net/">http://rss-jp.net/</a>
Bulknews	URL <a href="http://bulknews.net/">http://bulknews.net/</a>
読兎	URL <a href="http://www.yomiusa.com/">http://www.yomiusa.com/</a>
kawabata.com	URL <a href="http://www.kawabata.com/">http://www.kawabata.com/</a>
音楽情報ヘッドライン	URL <a href="http://www.paw.hi-ho.ne.jp/ether/">http://www.paw.hi-ho.ne.jp/ether/</a>



**RSS**

**RDF**

**Syndicate this site (XML)**

RSSへのリンクを見つけたら、それをNewsGlueの左のツリーにドラッグ&ドロップするだけでも購読サイトを追加できる。フォルダーで分類している場合に目的のフォルダーに直接入れられるのが便利だ。

新規作成

名前(N):

URL(U):

新規作成ウィンドウの名前欄にサイトの名前、URL欄にRSSファイルのURLを記入し「OK」を押せば、RSSを登録できる。

## RSSはこうやって探す

RSSを発行しているサイトをどうやって探せばよいのだろうか？ 方法はいくつかある。まずは日本のRSSファイルを収集しているサイト「rss-jp」<http://rss-jp.net/>に行くことだ。このサイトでは日本でRSSファイルを発行しているサイトを網羅していると言っても過言ではない。「NetGlue」<http://www.netglue.com/>のサイトのRSS検索ページも便利だ。

<http://rss-jp.net/>

rss OR rdf filetype:rss OR filetype:pdf

Google 検索

Googleのファイルタイプ検索を使えばRSSだけを探せる。

<http://www.gluesoft.co.jp/RSS/>

Finder.aspx

海外のサイトなどを探す場合には、Googleの出番だ。たとえば「CNN RSS」で検索してみよう。あっという間にCNNのRSSファイルを検索できた。ひたすらたくさんのRSSを探したいときは、Googleで魔法の検索キーワード「rss OR rdf filetype:rss OR filetype:pdf」を試してみよう。



GoogleはRSSにも対応しているので目的の内容のRSSを探せる。

## 取っておきたい情報は「紙」で保存

NewsGlueで集めた情報を保存しておきたい場合はどうすればいいのだろうか。ブラウザーにブックマークという手もあるが、ニュースのコンテンツは時間がたつと削除されてしまうことが多い。できれば情報の中身をそのままローカルに保存しておきたいところだ。そんなときに役立つのがフリーソフトの「紙2001」だ。

このツールはテキスト、画像、ウェブサイト、なんでもワンタッチでローカルに保存できてしまう電子スクラップブックだ。「NewsGlue」で気になるニュースを見つけたら右クリックで「ページ全体を紙2001に取り込む」を選択すればそのままローカル保存される（IEの場合）。テキストの一部分のみを保存することも可能だ。

「NewsGlue」で情報収集、「紙2001」で整理保存。これが最高の情報処理ソリューションだ。

なお、より高機能なシェアウェア「紙Professional」も用意されている。  
<http://www.ki.rim.or.jp/~kami/>



## ブラウザーに組み込んで使うRSSリーダーもある

まだまだ単体型のRSSリーダーが多いが、ブラウザー一体型のリーダーも現れている。「Mozilla Firebird RSS Reader plugin」は話題の「Mozilla Firebird」用のプラグインソフトだ。このプラグインをインストールするとブラウザー画面左側にRSSから生成した

ニュース一覧が表示され、クリックでブラウザー画面に内容を表示できる。RSSファイルをブックマークと同じ扱いで処理できるため、非常に使い勝手がいい。将来的なRSSリーダーはこのような形になっていくのかもしれない。

## RSSを提供する側は

ここまで主に利用者の立場でRSSについて述べてきたが、RSSを提供するコンテンツホルダーの方はどのように考えているのだろうか。話を聞いてみた。

「@IT」事業開発局の樋口理氏によると、RSS配信を行うようになったのはユーザーの要望によってではなく、サービス充実、あるいはRSS普及啓蒙活動の一環としての位置付けでとのことだ。RSSファイル自体へのアクセスは時間とともに増え続けており、トップページの1割程度のPVがあるそうだ。今後もRSSの配信はウェブページへのナビゲーションのための副的手段として継続していくとのことだ。

独自RSSファイルの提供を行っている「Bulknews.net」の主宰者である宮川達彦氏によると、BulknewsでのRSS提供は日本でもかなり早くから始められており、2001年に、あるカンファレンスでRSSがXMLのキラアプリケーションとして紹介されたのをきっかけにサービスを始めたそうだ。やはり開発者にとってXMLとRSS関連は関心が高いテーマで、熱心な開発者たちによるツールの開発などによって

XML技術が草の根から普及してきているのが今日の状況だとのことだ。今後もRSSは普及するだろうが、広告との兼ね合いや、二次配信の際の引用や著作権表示などの問題をクリアする必要があるだろうとの指摘もあった。同様のことはRSSリーダーにも要求されるだろう。また、RSSのバージョン問題については、いったん重厚長大なバージョンのRSSが流行り、その後またシンプルなRSSに戻って落ち着くのではないかと予想しているということだ。

RSSはインターネット全体で見るとまだ普及への道を進んでいる段階だ。おもしろいのは、B2Bを画期的にするという売り込みだったXML技術が、実際にはウェブログやRSSといった形で先に普及が始まっているというインターネットらしい動きだろう。誰でも情報収集ツールとして便利に使えるRSSリーダーは、こういったXML技術が実現したものの1つだということを知っておくと、また新しい便利な使い方を発見できるかもしれない。





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)